

線形代数 5.1.01  
「抽象ベクトル空間の定義」

吉富 賢太郎

大阪府立大学

2017

# ベクトル空間の導入

数ベクトル空間  $V = \mathbb{R}^n, \mathbb{C}^n$

…  $n$  次元ベクトル全体の集合に自然な和やスカラー倍を定義したもの

i.e.  $v, w \in V, c \in \mathbb{R}$  または  $\mathbb{C}$  に対して  $v + w, cv$  が計算できて、

$$4(3u) + 1v = 12u + v, 2(3u + 4v) = 6u + 8v,$$

$$u + (-1)u = \mathbf{0}, v + \mathbf{0} = v, \dots \text{etc.}$$

類似の計算ができる ‘集合’ は他にも…

例. 多項式の集合  $f(x) + g(x), cf(x)$

例.  $2\pi$  を周期に持つ周期関数全体  $\sin 2x + \cos 3x, 7 \cos x$

$$h(x) = f(x) + g(x) \Rightarrow$$

$$h(x + 2\pi) = f(x + 2\pi) + g(x + 2\pi) = f(x) + g(x) = h(x)$$

例. 実数数列全体の集合  $\{\{a_n | a_n \in \mathbb{R}\}_{n=1}^{\infty}\}$

$$\{a_n\} + \{b_n\} = \{a_n + b_n\}, 3\{a_n\} = \{3a_n\}$$

共通の性質を考えたい

$\Rightarrow$  「足し算やスカラー倍ができる集合」 = 「ベクトル空間」

スカラーを実数で考えるとき： 実ベクトル空間

スカラーを複素数で考えるとき： 複素ベクトル空間

## ベクトル空間の正式な定義

$\mathbb{K}$  (=  $\mathbb{R}$  または  $\mathbb{C}$ , 体)  $V$  が  $\mathbb{K}$  上のベクトル空間であるとは:

$V \neq \emptyset$  で各  $x, y \in V$  と各  $c \in \mathbb{K}$  に対し

和  $x + y$ , スカラー倍  $cx$  が定まっていて,

次の (自然な) 性質を満たすもの ( $c, d \in \mathbb{K}, x, y, z \in V$ ).

結合法則:  $(x + y) + z = x + (y + z)$ ,  $c(dx) = (cd)x$

分配法則:  $c(x + y) = cx + cy$ ,  $(c + d)x = cx + dx$

和の可換性,  $\mathbf{0}$  の存在:  $x + y = y + x$ ,  $x + \mathbf{0} = x (= \mathbf{0} + x)$

1 倍の性質, 逆元 (逆ベクトル) の存在:

$$1x = x$$

$x$  に対し,  $x + y = \mathbf{0}$  となる  $y$  が存在 ( $-x$  と書く)

$\mathbb{K} = \mathbb{R} \rightarrow$  実ベクトル空間,

$\mathbb{K} = \mathbb{C} \rightarrow$  複素ベクトル空間

- ベクトル空間の要素 (元) = ベクトル
- $\mathbb{K}$  の要素 = スカラー

次回: 「ベクトル空間の例」